

稲作管理特報

令和6年6月24日
入善産米品質向上対策本部
黒東地域農業技術者協議会

遅れていたコシヒカリの生育はほぼ平年並みに回復しています。一部で中干しが不十分なほ場も見受けられます。今後は、田面に小さな亀裂が入る程度の中干しを数回繰り返しほ場を固め、その後は「**間断かん水**」を実施し根の活力を高めましょう。

【コシヒカリの生育状況 (JAみな穂管内)】 (展示ほ10ヶ所)

年度	田植日 (月/日)	6月11日				6月18日					
		草丈 (cm)	茎数		葉 齢	葉 色	草丈 (cm)	茎数		葉 齢	葉 色
			(本/株)	(本/m ²)				(本/株)	(本/m ²)		
R6	5/12	29.3	14.7	304	7.3	4.3	39.3	23.4	485	9.1	4.4
R5	5/11	33.3	16.0	327	7.9	4.2	41.0	21.4	438	9.2	4.2
平年	5/12	32.8	15.7	324	7.8	4.3	39.0	21.3	441	9.1	4.3

1 中干し後の水管理

○中干し後は、幼穂形成期まで「**間断かん水**」

- ・根は幼穂形成期まで急速に増加します。**幼穂形成期まで湛水と落水を繰り返す「間断かん水」**で土壌に酸素と水を供給し、根の発達を促しましょう。
- ・幼穂形成期頃までに、足跡深さが3cm程度の硬さになるようにしましょう。

間断かん水のイメージ



【間断かん水の方法】
乾きやすい圃場：入水→落水→2～3日落水
乾きにくい圃場：入水→落水→4～5日落水

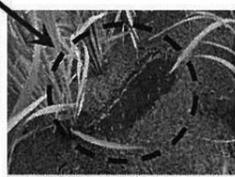
湛水と落水を繰り返し、根に新鮮な水と空気を交互に供給

○幼穂形成期～出穂期始めまでは「**飽水管理**」

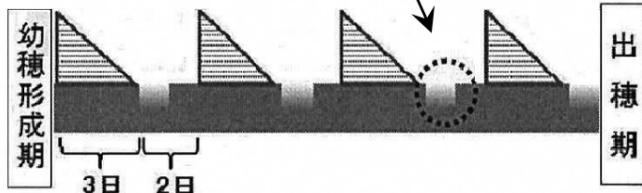
- ・常に足跡や溝に水が残るくらいの状態を保ち、根の活力と葉色の急激な低下を防止しましょう。

飽水管理のイメージ

飽水管理の方法
3cm程度入水後→落水→
足跡の水がなくなる前に入水
(出穂始め頃まで 繰り返す)



この状態になったら入水



出穂期

中干し後は、**間断かん水**を実施し、**稲体の健全化を図りましょう!**

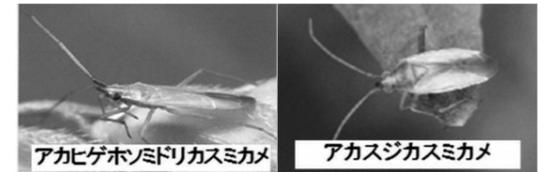
2 後期除草剤の散布

- ・ノビエや広葉雑草が残った場合は、後期除草剤を散布しましょう。**散布の際には、収穫前日数に注意しましょう。**
- ・下表の剤を使用しても、雑草が残る場合は振興センター又は営農指導員にご相談ください。

対象雑草	農薬名	成分数	散布時期	散布量 (10aあたり)	使用回数
ノビエ	トドメ MF1キロ粒剤 (湛水して散布)	1	田植後14日～ノビエ5葉期 (収穫50日前まで)	1kg	3
ノビエ 広葉雑草	トドメバス MF液剤 (落水して散布)	2	田植後15日～ノビエ6葉期 (収穫50日前まで)	1000mL (希釈水量 70～100L)	2
広葉雑草	バサグラン粒剤 (落水して散布)	1	田植後15～55日 (収穫60日前まで)	3～4kg	1
広葉雑草 (クサネム対策)	ロイヤント乳剤 (落水散布又はごく 浅く湛水して散布)	1	田植後20日～ノビエ5葉期 (収穫45日前まで)	200mL (希釈水量 25～100L)	2

3 草刈りの徹底

- ・県の病虫害防除所の調査では、畦畔や雑草地における越冬後の斑点米カメムシ類のすくい取り虫数は、過去10年で最も多くなっています。畦畔や雑草地でのカメムシ類の増殖を抑えるため、イネ科雑草の穂が出ないように草刈りを行いましょう。



大麦の株間に生える
スズメノテッポウ

「水田畦畔等の草刈り運動」の実施について

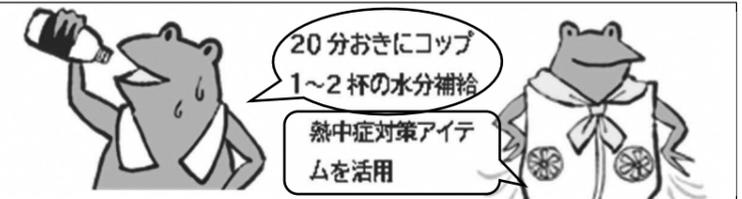
運動期間 6月28日(金)～7月7日(日)
一斉草刈り日 6月29日(土)、30日(日)

☆大麦跡田や転作田のほ場管理

- ・大麦跡田などはカメムシ類の繁殖好適地となるため、雑草が繁茂しないよう管理するとともに、積極的に大豆や園芸作物、緑肥等を栽培しましょう。

◎熱中症を予防しよう!

- ・作業はできるだけ複数で行い、時間を決めて体調確認を行いましょう。



★JAみな穂営農情報メールを配信しています。

下のQRコードを読み込み、案内に沿って手続きして下さい。

主な情報
提供内容

- ・水稻・大麦・大豆の生育情報及び今後の管理
- ・気象情報と災害防止の対策

